

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部埼玉県済生会加須病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル H-2 : 病態別抗菌薬選択の目安		
文書番号	感対-共手-マニュアル H-2-1-220601	ページ	1 / 1

H-2 : 病態別抗菌薬選択の目安

- ①病態から起炎菌を推定する（下記表を参照）。
- ②推定起炎菌にあわせて最適な抗菌薬を選択する。
- ③起炎菌が判明しだい最適薬に変更する。別表「アンチバイオグラム」参照

* 前項「経験的治療の流れ」参照

	病態	目標菌種	選択薬	備考	
呼吸器	感染機会の少ない 市中発症例	<i>S.pneumoniae</i> <i>H.influenzae</i> (<i>S.aureus</i>) (<i>M.catarrhalis</i>) (<i>K.pneumoniae</i>)	経ロベニシリン 経ロセフェム 注射用ベニシリン 注射用セフェム(I、II) 注射用セフェム(II、III)	高齢者ではマイコプラズマは希 無効時はクラミドフィラ、レジオネラ、結核を 考慮	
	感染症状を繰り返す 市中発症例	<i>H.influenzae</i> <i>S.pneumoniae</i> <i>K.pneumoniae</i> <i>P.aeruginosa</i> <i>M.catarrhalis</i>	経ロセフェム βラクタム阻害薬+ベニシリン ニューキノロン 注射用ベニシリン 注射用セフェム(II、III) カルバペネム	過去の分離菌、直前の投与薬剤を参考に	
	院内発症例 (前投薬あり)	各種耐性菌 <i>P.aeruginosa</i> MRSA	注射用セフェム(III) カルバペネム バンコマイシン	過去の分離菌を参考 直前の投与薬剤に無効な菌種を目標に	
	誤嚥例 (悪臭、膿瘍)	上記+嫌気性菌 (<i>Prevotella</i> , <i>Porphyromon</i> <i>as</i>)	注射用セフェム(II、III) モノバクタム+クリンダマイシ <i>as</i>)	口腔ケア、食事形態などに配慮	
尿路	急性単純性尿路感染	<i>E.coli</i> (<i>P.mirabilis</i>) (<i>K.pneumoniae</i>)	経ロセフェム オールドキノロン 注射用セフェム(I、II)	起因菌多様、培養結果参照 尿道カテーテル留置例では、菌交代現象で定 着したカンジダ、腸球菌は放置	
	慢性複雑性尿路感染 (前投薬あり)	<i>P.aeruginosa</i> 各種耐性菌	ニューキノロン 注射用セフェム(II、III)		
皮膚	皮膚化膿症	<i>S.aureus</i> <i>Peptostreptococcus</i>	βラクタム阻害薬+ベニシリン 注射用セフェム(I、II)	切開排膿が重要	
	丹毒	<i>S.pyogenes</i>	ベニシリン		
	褥瘡 (発熱時)	複数菌感染 (腸内の細菌) (<i>B.fragilis</i>)	ニューキノロン 注射用セフェム(II、III) カルバペネム	壊死組織除去、免荷などが重要 Colonization は局所のみ	
消化器	胆道感染症	<i>E.coli</i> <i>K.pneumoniae</i> (<i>B.fragilis</i>) (<i>Enterococcus</i>)	経ロセフェム ニューキノロン 注射用セフェム(III)+ABPC	CPZ、CFPM は胆汁移行特に良好	
	腸炎	市中発症 感染性腸炎	<i>Shigella</i> , <i>Salmonella</i> など	(ニューキノロン)	軽症例の多くは自然治癒
		抗菌薬 関連腸炎	<i>C.difficile</i> MRSA	バンコマイシン(経口)	抗菌薬投与中の発症
	腹膜炎	腸内常在菌	第3世代セフェム カルバペネム		
顆粒球減少患者の 感染症	口腔・ 腸管常在菌 による敗血症	細菌(緑膿菌、 MRSA、非発酵菌)	アザクタム+ダラシン、 カルバペネム 注射用ニューキノロン	コロニー刺激因子 結核、真菌症、ニューモシスチス肺炎、サイト メガロウイルス感染にも注意 絨毯(じゅうきゅう)爆弾になりやすく要注意 出来るだけの絞って	
	日和見病原体 による感染症	真菌 結核菌 ニューモシスチス	抗真菌薬 抗結核薬 ST合剤		
術後感染予防	創感染	清潔手術	黄色ブドウ、 表皮ブドウ球菌	PC+βラクタム阻害薬 第1世代セフェム	大まかな目安を示しますが、詳細は各科の術 式に合わせてガイドラインを決めて下さい
		汚染手術	大腸菌、緑膿菌、 嫌気性菌	PC+βラクタム阻害薬 第2、4世代セフェム	
		術後肺炎	咽頭定着菌		挿管前にMRSAがあれば除菌
		術後尿路感染 腸炎	上記抗菌薬関連腸炎		発症後病態、分離菌に合わせて薬剤選択

第一世代、第二世代などセファロスポリンについて、慣用的に第一世代、第二世代セフェムと表記。